

告示

１ 本日午後、ＡＪ総会に引き続いて行われたＡＪ理事会において、石丸英明、左海利久の両氏をＡＪの統括する日本のブルベにおけるブルベ主催者として不適格であると認定しました。

よって、両名はブルベの主催団体の代表、副代表として認可しません。また事務局などとしてブルベに関与していることが判明すれば、判明した時点でその主催団体とＡＪの主催者契約を破棄します。

ただし、個人サイクリストとしてブルベに参加することについてはこのかぎりではありません。

残念ながらこのような強い措置を取らざるを得なくなった理由は以下の通りです。

★ ★ ★

両名はオダックス近畿（Ａ近畿）のブルベ臨時代行主催者と事務責任者であり、実質的な共同主催者である。

両名は本年度ブルベ開催において、会員外のブルベ認定費用、メダル代などの支払いを４月以降１０月末まで行わなかった。これは、近畿以外の各主催者はＢＲＭ毎に精算するとの決定に基づき〔２００５／１０／２２ 理事会決定〕、ブルベ開催毎に二週間以内に精算を行っているものである。

また８月以降の精算催促にもすぐやると虚偽の返答を繰り返して、結局１０月末まで支払わなかった。

さらに、未納の理由を尋ねられても、言を左右し返答をしなかった。

これらは臨時代行主催者の管理責任が大きく問われるところであり、事務責任者の怠慢でもある。またこれらは重大な信義則違背でもある。

両名は０７年度ブルベ開催予定のＡＣＰへ申請について、あらかじめ通知してあった申請事務担当者の作業量上の日程から来ている締め切りを全く守らなかった。さのみならず、日本のＢＲＭ開催予定全体がＡＣＰの決めた申請期限に間に合わないかもしれない事態にまで立ち至らせた。これは、０７年の日本全国のブルベの開催が危ぶまれた事態であり、日本人のＰＢＰ参加の道を閉ざしかねない事態であった。また申請事務担当者にも多大な負担をかけた。

以上は両名に主催責任者としての期日厳守の姿勢がないことから来る、管理責任および実務責任が問われるところである。

石丸臨時代行主催者は、総会議案に対しては、同じく定められた期日内に意見を述べず、期日後になって具体的説明のない項目や既に決着済みのことを持ちだし、理事会及び会員に混乱と無用の負担を強いる行いをした。

これも、臨時代行主催者に期日厳守の姿勢がないところからくる管理責任を問われるところである。

またこの間には臨時代行主催者と事務責任者との意思疎通、連絡の不十分さが伺え、臨時代行主催者を立てたA近畿の体勢が破綻していることが明白になった。

のみならず、期日後に再三問題と称するものを持ちだしてくるところには、問題のすり替えでその場を逃れようとする姿勢も伺える。

そして滞納問題に対して自分らの怠慢であるとの謝罪はあったものの、問題解決を図るための正確な滞納理由説明はなされていない。

また来年度申請問題に対しても、事後の釈明はあったものの、期日ギリギリになる理由にはなっていない。

以上のごとく、A近畿の臨時代行主催者石丸英明氏と事務責任者の左海利久両氏は、実質的共同主催者としての管理責任と実務責任を果たさなかったと認められ、あまつさえA Jの運営に重大な危機をもたらした。また全くのボランティアでありながら年間数十本のブルベを開催するという組織は、仲間の信頼の上で成り立っているが、両氏はこの信頼関係を混乱させ大きく傷つけた。

故に、A Jは両氏を主催者として不適格であると認定した。

2 近畿における来年度のブルベについて

A近畿の代理として出席した岡田一氏より、上記の決定を持ち帰って今後の対応を検討するという発言があった。A Jとしては、近畿地方のサイクリストのPBPにむけてのブルベ参加に配慮した対策を考えているが、とりあえずはA近畿の対応を待つつもりである。